

## 第一回奈良教育大学

### 運営諮問会議を開催

学長補佐

柳澤保徳

奈良教育大学運営諮問会議の第一回会議が、平成十二年七月六日(木)午後、本学事務局大会議室において開催されました。

運営諮問会議は、大学が社会からの意見を聴取して、社会的存在としてのその責任を明らかにする必要があるとの観点から、本年四月からすべての国立大学に設けられました。会議は、①本学の教育研究上の目的を達成するための基本的な計画に関する重要事項、②教育研究活動の状況について本学が行う評価に関する重要事項、および、③その他本学の運営に関する重要事項について、学外有識者の立場から学長の諮問に応じて審議し、学長に対して助言または勧告を行うことを目的としています。

第一回会議には七名の委員と大久保学長をはじめ、図書館長、学長補佐、各種委員会委員長等大学関係者が出席し、学長の挨拶に続いて、諮問委員の紹介の後、委員長には南浦純一郎氏、副委員長に

は中尾勝二氏が選出されました。

はじめに、大学側から、「奈良教育大学の教育・研究の概要」「奈良教育大学の教育・研究の現状及び将来」について、それぞれ両学長補佐、企画委員長、自己評価委員長、将来構想委員長、大学院研究科運営委員長及び事務局長による説明が行われました。これを受けて各委員から活発な意見が寄せられました。委員からの主な意見・指摘は次のとおりです。

・奈良県教育委員会との連携について

どのように公立学校の教育を進めていくのか等、教育委員会の抱えている課題も多く、大学との連携・協力について、教育委員会からも積極的に働きかけたい。

・高校教育と大学教育の接続について

入試科目の少数化等により基礎学力をつけぬまま進学する者に対して大学での補習授業が必要ではないか。

大学の改革・将来構想等の情報を、大学を選択する情報の一つとして、高校生に伝えていくことが重要で

ある。

・学部教育について

交換留学生に接して思うことであるが、もっと自分の国のことを知る教育を行っていただきたい。

社会が豊かになりすぎ、何か大事なものを忘れていないのか。教育者は、世の中の展開に流されないモラルとか考え方をもちつことが必要と考える。

企業にも目を向けての人材養成はできないのか。

・大学院の教育について

社会人を受け入れるとともに、現職教員をできるだけ大学院へ受け入れ、教員のレベルアップをはかるということも、教育大学として進まれる方向ではないか。

・教員養成について

優秀というよりは有望な人材を養成していただきたい。

将来性のある学生とはどのような学生か、教員としてどのような資質が必要なのかということを考えざるを得ない。

大学で教育現場に近いところの教育実習をどのように展開していくかが重要と思う。

・独立行政法人化について

独立行政法人化については文部

省で調査検討会議を置いて検討するとのことであるが、奈良教育大学としてはこのようにしたいということでも検討されることが必要と考える。

会議終了後、学内施設見学が行われ、教育実践総合センター、教育資料館等を見学しました。

運営諮問会議の委員は次の九名の方々です。任期は平成十二年四月一日から二年間です。(五十音順・敬称略)

板橋知義 (社)奈良工業会専務理事

内田弘保 文化庁顧問

竹村 隆 奈良県高等学校校長協会長 (六月一日より)

筒井寛昭 奈良市国際交流ボランティア協会会長

中尾勝二 奈良県教育委員会事務局理事

丹羽雅子 奈良女子大学学長

南浦純一郎 (財)奈良県文化事業団副理事長

村田勝彦 奈良商工会議所専務理事 (九月一日より)

森井恵治 三郷町立三郷小学校校長

なお、本会議の審議内容等については、本学のホームページ、<http://www.nara-edu.ac.jp/home-iphm>

に詳しく公表の予定です。